



座間小キャラクター
ざまたん

校長のつぼやき^{ぶ?}

座間市立座間小学校
校長 石田 正行

日頃、気づいたことなどをちょっとずつ、つがやいていきたいと思います。時にはぼやきになってしまうかもしれませんが、なのでつぼやき……。

今回画像はありません。文字ばかりで見づらいかもしれません。

【3月11日に思うこと】

3月11日。15年前のこの日、14時46分に東日本大震災が起こりました。今でも鮮明に覚えています。

私は当時、長期研修で他市に居り、自宅へ帰れるか不安な時間を過ごしました。家族と連絡はとれましたが、回線は混乱し、さらに停電で信号機はダウン。警察官の手信号にしたがって車を運転したのは初めてです。

テレビに映ったのは、千葉県のコンビナート火災。そして宮城県沖の津波。車がおもちゃのように流され、時間とともにビルの屋上近くまで上がる水位。見ているだけでも恐怖なのに、その場にいた人たちの思いを想像するだけで胸が苦しくなります。

私は宮城県に友人が居り、35年ほど前に女川町を訪れたことがありました。小さなきれいな港町でした。そのことがあり、震災から4年後、復興ボランティアとして女川町に向かいました。4年たっているので、ある程度元に戻っていることを期待していましたが、その期待は完全に崩れました。

見渡す限りの荒れ地。そこには家の基礎だけが残り、それだけが以前民家があったという印でした。

海沿いの建物は、コンクリート造りの物でさえ鉄筋だけが残され、屋上に逃げた人たちも津波に飲み込まれてしまったことを想像させられました。

亡くなった方は約1万6000人。今なお行方不明の方は約2500人。

3月11日の朝、職員打合せで、当時の話や児童への指導について連絡しました。職員の中には、当時、小学生だった者もいます。小学生だった自身の体験を話すのも、子どもたちの心にひびくものがあると思います。

本校では、校庭に半旗を掲揚し、クラスごとに震災についての話と黙とうをしました。また、黙とうと半旗の意味も担任から児童に説明をしました。

震災はいつ起こるか分かりません。しかし、必ず起こります。毎年、避難訓練や防災について学習をしていますが、その力が身に付いているかどうか、その時にならないと分からないもどかしさがあります。

いざという時に、どうやって子どもを守るか。子ども自身がいかに身を守るか。

亡くなった方がたを思う気持ちと合わせて、過去の災害を教訓に、備えを身に付けていかななくてはなりません。